

お使いになる方へ

< 音声の使い方 >

会話

使い方 1. 授業の初めに聞かせる場合

- ①学習者の日本語習得がまだ進んでいないときは、音声を聞かせるだけでよい。
- ②学習者の日本語習得がある程度進んで、一度聞いただけで70% ぐらい理解できると予測される場合は、音声を聞かせたあと内容確認の質問をして、理解度を見る。その上で練習に入る。

使い方 2. 練習が終わった後で聞かせる場合

- (1)会話例を聞かせる。
- (2)内容確認の質問をして、全体の流れをつかませる。
- (3)一文ずつ聞かせてリピートをさせる。
- (4)会話例の流れを参考にして、学習者自身のことで会話をする。

CDを聞きましょう

- (1)例を聞かせて、質問をして、答えさせる。
 - (2)1 を聞かせて、例の答えの書き方を参考に、聞き取ったことをメモさせる。
 - (3)例と同じ質問をして、口頭で答えさせる。
 - (4)必要ならもう一度聞かせて、リピートさせる。
 - (5)同様のことを2、3についても行う。
- ※未習の表現が入っている場合は、前後関係で理解させる。必要なら取り上げて練習して、理解、習得させる。

応用

- (1)応用会話を聞かせる。
- (2)メインテキストの質問をして、口頭で答えさせる。質問の要点をとらえた答えができればよしとする。

例：14 課セクション2 応用(1)

質問：・何ができますか。 ・いつ仕事ができますか。

解答例：・パソコンが使えます。 ・毎日午後できます。

- (3)もう一度聞かせて、リピートさせる。

※表現を豊かにするために未習の表現が入っていることがあるが、それは前後関係の中で理解させる。必要なら取り上げて練習してもよい。

まとめ

使い方 1.

- (1)全体の流れを理解させるために一度聞かせる。
- (2)内容の切れ目まで聞かせ、内容確認の質問をする。
- (3)もう一度聞かせ、リピートさせる。
- (4)同様に最後までやる。
- (5)時間があれば暗記させたり、同じ場面設定で、学習者自身のことで会話をさせてもよい。

使い方 2.

- (1)一部を空欄にしたシートを作って学習者に渡し、音声を聞かせて、穴埋めをさせる。
 - (2)穴埋めをした会話を発表させて、合っているかどうか確かめる。
 - (3)もう一度聞かせて、リピートさせる。
 - (4)時間があれば、暗記させたり、同じ場面設定で、学習者自身のことで会話をさせてもよい。
- ※表現を豊かにするために未習の表現が入っていることがあるが、それは前後関係の中で理解させる。必要なら取り上げて練習してもよい。

学習者の学習効果をあげるために、学校だけでなく自宅で学習させるのも有効です。学習者が自宅で何度も聞き、リピートし、書き取る練習を続けていくと、聴解力と運用力が加速度的に伸びていきます。

